

令和2年度 若狭の海湖山から「体験の風をおこそう」運動推進事業
「わくわく体験塾」R2.9.20(日)～22(火・祝)



若狭の7つの施設で、いろいろな体験をして、新しい発見をしよう！そして、新たな友達と多くの思い出を作ろう。皆さんの参加をお待ちしています。..

- 期 日.. 令和2年9月20日(日)～22日(火・祝日)の2泊3日..
- 主 催.. 若狭の海湖山(うみやま)から「体験の風をおこそう」運動推進実行委員会..
- 体験内容..
 - ①【三方湖自然観察・博物館見学】..... 福井県里山里海湖研究所・福井県年縞博物館..
 - ②【博物館見学・火おこし体験】..... 若狭三方縄文博物館..
 - ③【野外炊事】..... 福井県立三方青年の家..
 - ④【館内見学・海の万華鏡作り】..... 福井県海浜自然センター..
 - ⑤【シーカヤック・キャンプファイヤー】..... 国立若狭湾青少年自然の家.. (荒天時：室内スポーツ・キャンドルサービス) ..
 - ⑥【館内見学・クイズラリー・道具体験】..... 福井県立若狭歴史博物館..
- ※ 天候等により、内容が変更になることがあります。..
- 対 象.. 福井県内の小学4年生～中学3年生 16名..
- 費用.. 4,500円(食費、体験代等) ※おつりのないようお持ち入れ、お持ちください。..
- 申込方法.. 希望者はメール、FAXのいずれかにより下記の内容を明記の上、お申込みください。..
 - 1. 参加者氏名 2. 性別 3. 保護者氏名 4. 郵便番号..
 - 5. 住所 6. 電話番号 7. 学校名 8. 学年..

申込期限 8月27日(木) 必着

☆定員を超えた場合は、抽選を行います。..
☆抽選となった場合、より多くの子どもたちに体験の機会を与えるという観点から、**初参加の人を優先します。**..
☆抽選結果によっては「兄弟や友達と一緒に参加したい」という期待に沿えない場合があります。..
ご了承のほどお願い申し上げます。..
☆抽選の結果や詳細を8月31日(月)頃までにお知らせいたします。..

■申込先 〒919-1464..
福井県三方上中郡若狭町世久見18-2..
福井県海浜自然センター 担当：田中..
T E L (0770) 46-1101..
F A X (0770) 46-9000..
e-mail kaihin@pref.fukui.lg.jp ..



- ◆目的
若狭地域の歴史・文化にふれ、すばらしさに気づく。
大自然での体験を通して、自然の偉大さを学ぶ。
仲間との交流を通して、友情を育み、多くの思い出を作る。

- ◆参加実績
参加 20名
- ① 年齢

小学4年生	6名
小学5年生	10名
小学6年生	4名
- ② 地域別

鯖江市	2名
越前市	2名
敦賀市	5名
小浜市	4名
美浜町	2名
若狭町	2名
おおい町	1名
高浜町	2名



◆プログラム<2泊3日>

- 【1日目】
 - 三方青年の家・・・開校式、アイスブレイキング、里山海湖研究所・・・三方湖畔自然観察
 - 年縞博物館・・・見学、シアター
 - 縄文博物館・・・見学、火おこし体験
 - 三方青年の家・・・野外炊事(カレーライス)、宿泊
- 【2日目】
 - 海浜自然センター・・・見学、シアター、海の万華鏡作り
 - 若狭湾青少年自然の家・・・シーカヤック活動、キャンプファイヤー、宿泊
- 【3日目】
 - 若狭歴史博物館・・・特別公開の見学、むかしの道具体験、クイズラリー



◆成果

- ① アンケート結果からも、参加者から「とても良かった」「若狭のことが良くわかった」「たくさんの歴史にふれられた」「友達がたくさんできて良かった」「来年も来たい」など、7つの施設の活動に満足した（満足度100%）と回答が得られ、若狭の歴史文化にふれ、すばらしさに気づくと共に、仲間との交流を通して友情を育むというねらいが達成できた。
- ② 新型コロナ対策のため、参加人数を絞ったことで、安全にゆったりと過ごすことができ、活動を楽しむことができた。
- ③ 参加者は、コロナ感染拡大防止対策に理解してもらい、検温や施設の取り組みに理解した上で、安全に活動することができた。

◆参加者の声

- シーカヤックで最初は息が合わなかったけれど、終盤には息が合っただけでよかった。
- 縄文博物館では、昔の置物などを見て、たくさんの歴史にふれることができた。
- 3日間じゃなくて次はもっと長くてもいいなあと思いました。みんなと会えなくなるのが悲しいです。
- キャンプファイヤーが一番心に残っています。自分でできることたくさんあることがわかりました。
- 海浜自然センターでのえさやりが一番心に残りました。
- 年縞博物館の年縞がおもしろかったから、また行きたい。
- キャンプがおもしろいということがわかった。
- みんなで協力することが一番大事だということがわかりました。
- 自然と触れ合うことはとてもいいことだとわかりました。



◆事業運営のツボ・工夫・反省

- 7つの施設の特徴を生かし、歴史・文化・自然について学ぶために、その施設でしか体験できない活動を計画した。
- 事務局主導で、各施設での新型コロナ感染拡大防止対策を確認し、参加人数、活動形態、対応などについて協議し、安全対策を施すことができた。
- 例年とは逆に1日目に三方青年の家に宿泊する計画を立てたが、ゆとりを持って無理なく施設移動と活動ができた。
- 各施設の担当者が責任を持って担当できるよう、活動内容ごとで主担当を変えながら体験活動を提供したことで、他施設の担当者はサポートに回ることで、安全面に配慮した充実した活動となった。
- 今後は、さらに施設間の活動につながりを持たせ、ストーリー性を高めていけると良い。
- 申込用メールアドレスに記載ミスがあったため、追加募集をする運びとなった。今後は、インターネット参加申し込みフォームを利用することも視野に入れ、事務処理が正確で迅速に行えるようにしていく必要がある。
- 家庭の日（第3日曜日）や、他のイベントなども考慮し、開催時期を検討していく必要がある。



◆事業運営費	合計	170,394円
バス代		79,200円
消耗品費		19,140円
印刷費・通信費		39,214円
講師謝金・旅費		32,840円

